

ん。硬くて強い木は土台や枕木に、桧や杉は建築材にという考え方は少し了見が狭いように感じます。

大規模な林業経営者や大型製材工場の経営者の方においては、こういう話はただの青臭く幼い理想論のように感じられる事だと思えます。しかし、そのイメージに森を閉じ込めて、森や木はこうあらねばならぬ、こう使うべきと固執してしまつたからこそ、ここまで森が痩せ、林業が疲弊してきたのではないのでしょうか。森はもっと多様で複雑な要素をはらんでいます。それをうまく利用活用するためには、従来の住宅や土木などとは別の『出口』を探すしかないのではないのでしょうか。異常気象で深層崩壊などの土砂災害などが増え、根が浅く横に広がる

針葉樹に代わって広葉樹を植えようとされていますが、その広葉樹もやがて大きくなりいずれは伐採しなければならなくなる日が来ます。その時、その広葉樹をどうするのか？数十年先の事を今から心配する必要はないかもしれません、六〇数年前に杉や桧を植えられた先人達もきっとそう思われたでしょう。遙か未来の、大きく育つた杉や桧が緑の宝となる姿を夢見られたことでしょうか。悲しいかな現

実はそうはなりませんでした。これから先の五〇年、六〇年先の森の未来の姿は皆目検討もつきません。でもだからこそ多くの『出口』を探しておく必要があるのではないのでしょうか。それぞれの立場でそれぞれに『出口』を探すべきだと思いますが、例えばこ

れからは『切らない林業』というものがあってもいいかもしれません。教育関係の予算が絞られる中、森や自然と触れあう体験型の授業を引き受け、生きた教材として子供達に見て触れさせるという手法です。昨年、八〇名ほどの生徒相手に実施しましたが好評でした。森での体験といつても、植林や下草刈りだけでなくやり方次第ではもつと拡がる可能性があると思います。

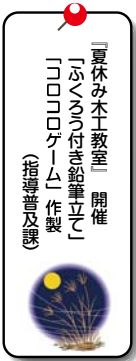


また多様な樹種を活かす方法として、私なりの『出口』として『森のかけら』という商品なども作っています。三五<sup>ミ</sup>角のキューブですが、同一スペックで二四〇種の木を揃えました。コレクション的な要素を持たせているので、A t o z という意味合いの中においては安価な杉から高級なチークまでは同等の価値を持ちます。一つ一つはそれぞれに意味や個性があります

が、それがたくさん集まる事でまた別の意味や価値を帯びるという点では、本当の森の縮小版『小さな森』と呼べるのではないかと自負の思いもあります。今回『キッズデザイン賞』を受賞したのを記念して、『今だからこそ子どもに伝えたい日本の木36』という特別セレクションも発売させていた



だきました。例えば小さな木片であったとしても、言葉や情報だけでなく実際に触れて五感で感じるという事が大切だと思います。地球上の同じ生命体の1員として、木の恩恵を享受する者として、木材のまだ見ぬ多くの『出口』を探り見つけるということは、次世代にも木の仕事と文化を健全に引き継いでいくための重要な役目だと思っております。さあ、やらねば！



『夏休み木工教室』開催  
『ふくろう付き鉛筆立て』  
『コロコロゲーム』作製  
(指導普及課)

横内小学校放課後児童クラブ外八カ所、高知市素ふれあいセンター外三カ所から講師依頼があり、高知市内の小学生及び保護者約五五〇名を対象に七月二三日から八月二三日までの一ヶ月間に森林環境教育を実施しました。カリキュラムとして、森林教室及び木工教室です。

森林教室では、森林への理解を深めてもらうため、森林の働きをパネル、紙芝居等で説明し、その後、森林からの「おくりもの」である、小枝（森林整備から発生した物）及び竹を使つての木工教室を実施しました。

ら、事前に各パーツに加工したものを使って『コロコロゲーム』を作製しました。昨年度に続き二回目の児童は、『ふくろう付き鉛筆立て』を作製しました。



参加者が作製したコロコロゲーム

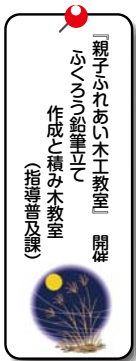
また、高知市教育委員会が主催した各ふれあいセンターの「親子夏休み木工教室」では、のこぎりや、ナイフを使い小枝等加工して「ふくろう付き鉛筆立て」作製し、特にのこぎりや竹を切るのに悪戦苦闘していました。

今回実施した、木工教室においても、最初は見本のとおり、作製していましたが、最後にはそれぞれに、個性豊かなすばらしい作品になっていきました。参加した小学生は、「夏休みの工作が出来ました。」とうれしうでした。



コロコロゲームの制作 (うまく作れたかな?)

この夏休み期間中に、たくさんの児童、先生、保護者の方に森林教室等を実施しましたが、少しでも森林・林業に興味を持って頂き、森林の大切さを理解していただけたらと思います。



『親子ふれあい木工教室』開催  
『ふくろう付き鉛筆立て』  
作成と積み木教室  
(指導普及課)

八月二〇日、公募による親子一二組、二九名が参加した「夏休み親子ふれあい木工教室」を、四国電力(株)高知支店において実施しました。

この木工教室は、夏休みの研究・学習の支援と身近な自然環境への関心や理解を深めることを目的として、(財)オイスカ高知県支局と共催で、例年、夏休み期間中に小学生とその保護者を対象に開催しています。

最初に、森林の役割や森林からの恩恵について、参加者に質問しながら森林教室を行いました。続いて、森林整備などで発生した竹や雑木の小枝などをを使った『ふくろう付き鉛筆立て』製作に取り掛かりました。



参加者が作製したふくろう付き鉛筆立て

子ども達は、事前に用意した、真っ直ぐに切り揃えた竹では物足りないと、竹の斜め切りに挑戦しましたが、竹の表面がツルツル滑ってなかなか思ったように切れず悪戦苦闘していました。しかし、森林ボランティアのスタッフに手伝ってもらって何とかオリジナルの鉛筆立てが完成しました。親子で協力して完成させた作品は、どれもすばらしい出来ばえでした。木工の後は、オイスカス

タツフと海外研修生が先生になり、積み木教室を行いました。

子ども達は、先生のお話を聞いた後、広い真っ赤なジュウタンの上で、それぞれが夢中で積み木を組み上げていました。

個々がくみ上げた単独の積木のはずだったのに足下では道のように積木と積木が繋がって一つなぎの街になっていました。

子ども達が木に馴染んで盛り上がったところで、作業を止めて積木を壊さないようにジュウタンの上から移動させて、外から完成した積木の街を見てもらい、「ここに集まったお友達と一緒に作り上げた世界にひとつだけの街です。」との出会いを大切にしましょうと呼びかけました。

また、みんなが使った積

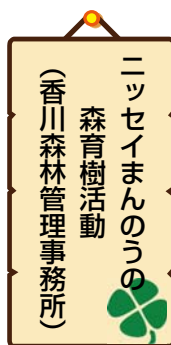
木はどのようにして作られたのかなど、順を追って丁寧に説明すると、子ども達は森林整備のために木を伐ることの大切さを知り楽しい一日を過ごしました。



親子で作業中 (木工教室)



## 各地のたより



八月二十九日、まんのう町下福家国有林の法人の森林(分収造林地)「ニッセイまんのうの森」において、育樹祭が実施され、三一名が下刈り作業に汗を流しました。

日本生命高松支社では、社会貢献活動の一環として、職員を中心としたボランティア組織「ニッセイの森友の会」会員による森づくり活動に取り組んでいます。この「ニッセイまんのうの森」では、平成一八年にヒノキ等を植樹し、平成二〇年には下刈りを行って、今回で三回目の活動となり

ます。

はじめに、作業説明を行った後、五つの班に分かれて作業を開始しました。不慣れた安定しない足場や大きな下刈り鎌に苦勞しながら、ヒノキを刈ってしまったくないよう慎重に作業を進めました。



ニッセイまんのうの森での森林ボランティア参加者

参加者からは、「草を刈ってやらんと木が負けてまいそうや。」「これは大変やね。」「植えたときは三〇センチくらいやったのに、大きくなったね。」といった感想が

聞かれました。

一時間ほどの作業でしたが、天気が良く、暑い日だったため、全員汗でびしょになり、中には「一年分の汗を一気にかいた。」と話している方もいました。これからも、自分たちの植えた木を大切に守り育て、地域の環境保全に寄与していただきたいと思えます。







四万十森林管理署

窪川森林事務所

首席森林官 竹内 千幸

窪川森林事務所は高知県西部の四万十町にあり、旧窪川町に所在する国有林と官行造林、約三、〇〇〇畝を管理しています。

管内は、東から西に流れる四万十川の中流域に位置し、北は城戸木森、南はシイラ漁で有名な興津の三崎山があり、海岸から標高九〇〇㍎の間に国有林が点在しており、最後の清流「四万十川」を求めて年間を通じ多くの観光客が行き来しています。

四万十町は八七・一%を

山林が占め、窪川森林事務所管内にはレクリエーションの森と保護林は無くそのほとんどが水土保持タイプで長伐期施業を主たる施業方法としており造林事業保育間伐(活用型)を今年は三箇所(請負契約件数は二件)実行中で町の産業として林業は、民有林・国有林問わず重要な産業であります。

この外、興津の三崎山は、潮害防備保安林、保健保安林、魚つき保安林及び、県立自然公園普通地域に指定され、海岸沿いでの森林に対する地元のニーズが多様

化しており今後の施業方法について特に林野巡視ときめ細かな森林整備が必要で

四万十町内の国有林には五在所森(六五八㍎)と城戸木森(九〇八㍎)に1等三角点があり、この三角点が一町内に1等三角点があることは珍しいことです。



折合の大ヒノキ

城戸木森はかつては幹周り日本一を誇った折合の大ヒノキ(幹周り九・九㍎)経由で登山をする人が多いのですが、その大ヒノキは

平成一四年の台風で大枝が折れた際に付け根の幹もぼつさり裂けてしまい幹周りが八・二五㍎になってしまいました。

また、五在所森は小学生なども登れる身近な登山コースであり、この三角点には四国に二箇所(全国に四五箇所)しかない天測点があります。現在は衛星測量

に変わり使用することは無いとのことですがその測点標の大きさは一辺が二七㍎の正八角柱で地上部が一・二㍎もある大きな物です。



五在所森の1等三角点 (奥のポールのところ)

現在、森林事務所は中津川森林事務所との合同事務所で保育間伐、境界巡検、管理業務、生産販売業務を行っており、出張先が近隣

森林事務所を含め複数となること、同じ林道名や同じ国有林野名があることなどから作業基準の遵守はもちろん、各人の行動予定を確認しながら日々の業務を行い、無災害を継続する森林事務所にしていきたいと思

